

真宗連合学会規約

第一条 (名称) 本会は真宗連合学会と称する。

第二条 (目的) 本会は真宗に関係ある學術の研究發達を図るをもつて目的とする。

第三条 (事業) 本会は前条の目的を達するために左の事業を行う。

一、大会(年一回)

二、資料の展観並に出版

三、その他必要な事業

第四条 (会員) 真宗に関係ある學術団体、及び研究者並びに本会の趣旨に賛同するものをもつて会員とする。会員は別に定める会費を納めるものとする。

第五条 (役員) 本会には左の役員をおく。

一、理事長 一名 理事中より互選し、本会を代表して会務を統理する。

二、理事 若干名 評議員中より、互選し、会務を処理する。

三、評議員 若干名 会員より選出する。

役員任期は二カ年とする。但し重任を妨げない。

第六条 (顧問・参与) 本会に顧問及び参与をおく。顧問及び参与は評議員の会議において推挙する。

第七条 (経費) 本会の経費は会費及び助成金その他の収入による。

第八条 (年度) 本会の年度は毎年四月一日に始まり翌年三月三十一日に終る。

第九条 (規約の変更) 規約の変更は評議員の会議に附し、大会の承認を受けることを要する。

附則 この規約は昭和二十九年十一月十四日より実施する。

昭和51年12月20日 印刷

昭和51年12月25日 発行

真宗研究・第二十一輯

編集者 真宗連合学会

代表者 藤原幸章

京都市北区小山上総町
大谷大学真宗学研究室内

発行所 真宗連合学会

印刷所 同朋舎

京都市下京区壬生川五条南

発売所 百華苑

京都市下京区堀川通花屋町
電話 5760番
振替 京都 25788

本願寺派宗学院編 《内容力タログ進呈》

宗学院論輯

全十五卷 一〇〇、〇〇〇円

佐藤哲英博士……そこに含まれる論文数(三〇〇余)は決して多くはないが、今は真宗学・仏教学の老大家となっている方々が、その青年時代にどのような研究態度で、またどのような研究課題ととりくんでいたかをまざまざと示す文献であり、それはまた現代の青年学徒には資すべきものを多々含んでいる。したがって本論輯の再刊こそは、昭和五十年間の宗学の歩みをさながらに再現するものとしてその意義少なからぬと考え、敢えてここに推薦する次第である。

普賢大円博士……昭和の初め頃に、学界に活躍した著名人から、今日第一線に働いている有名人までの、名論卓説が、ずらりと並んでいるのには、驚くより他はない。さながら、本願寺派宗学の発達の歴史を見るような観がある。数多くの名論卓説の中には、学界に永く記念すべき、金字塔を打ちたたてた論文もある。真実の宗学を学ばんとする人々にとっては、是非とも座右に置いて、参考とすべき、大切な文献である。今回この文献の復刻がなされることを、心より喜ぶとともに、大方の学者者諸賢に推奨する所以である。

神子上恵竜博士……その論文は、宗学に関するものだけではなく仏教や仏教史学、書誌学など各方面に及んでいる。私にとつて忘れ難いのは、第三輯より二十輯に掲載されている『本典研鑽集記』である。この集記は山勧学の講義を筆録したもので、今では懐しい思い出となっている。凡そ研究誌にはそれ／＼学風があるが、宗学院論集のそれは着実と重厚にあると云ってよい。着実重厚の研究であればこそ、いつまでも亡びない学的価値を持っているのである。

宮崎円道博士……本派の宗学院は開設以来、宗学の着実な研究を基盤として進められ、同論輯はその成果発表の機関として、近代本派の宗学研鑽史上重要な位置を占めてきたと思う。しかも宗学に関連する新分野をも開いてきたので、たとえば全国諸寺に襲蔵してきた古本聖教の総合調査をかなり長い年月にわたって進め、現存目録の作製や調査研究の記録を掲載している。現代広く利用されている真宗聖教全書の編集の如きも、ある意味ではこの調査を背景としてできたものともいえるであろう。……

永田文昌堂 〒600

京都市下京区花屋町通西洞院西入
電話 075-361-6651番

小川一乘著 (大谷大学専任講師)

空性思想の研究

B5判 四五〇頁
価一八、〇〇〇円
二八〇〇円

—入中論の解説—

竜樹の空観思想の真髓が大乗の仏道体系の上で具体的に説明されている待望の文献学的成果

幡谷明著 (大谷大学教授)

親鸞教学の思想史的研究

A5判 五二〇頁
価八、〇〇〇円
二八〇〇円

真宗が真実の宗教であり大乗の仏道であることを、大無量寿経の伝統とそれに基づく親鸞の独自の教判論を中心に説明したもの

野上俊静著

中国浄土三祖伝 価一八〇〇円

稲葉秀賢著

蓮如上人の教学 価三五〇〇円
二四〇〇円

広瀬 昊著

観無量寿経講話 価一六〇〇円
二〇〇〇円

寺川俊昭著

清沢満之論 価二三〇〇円
二〇〇〇円

安田理深著

自然と人間 価一六〇〇円
一六〇〇円

本多弘之著

親鸞の救済観 価三二〇〇円
二〇〇〇円

金子大栄著

真宗学序説 価一八五〇円
一六〇〇円

伊東慧明著

歎異抄の世界 (全五巻) 価二八〇〇円
二四〇〇円

文栄堂書店

〒604 京都市中京区
寺町通三条上

振替 京都 2948
電話 075-231-4712

仏教思想2

悪

仏教思想研究会編

人間の犯す悪の問題はインド古代より仏教思想を通じて一貫して人間思考の歩みの中核を形成してきたといえよう。この本は内容目次に見られるように、悪の概念規定を資料的に分類整理し、悪と関連する術語を適確に解明するとともに、インド・中国・日本の古代から現代にいたるまで、仏教思想を主とした悪の思想史的連関を現代第一線の学究が真摯に問う清新の論著。

〈十一月末刊行・次回は「因果」を刊行予定〉

A5上製／四一六頁／四三〇〇円／丁二四〇円

内容 悪(中村元) 善悪心報の思想(雲井昭善) 原始仏教における悪の觀念(藤田宏達) 善悪一如(田村芳朗) 悪の肯定(松長有慶) 密教における悪(金岡秀友) 華嚴教学における善と悪(鎌田茂雄) 日蓮を中心としてみた悪の超克(浅井円道) 道元の悪(玉城康四郎) 親鸞における悪の自覚(田中教照) インド仏教の末法思想(雲井昭善) 中国における末法思想(道端良秀) 日本における末法思想(石田瑞麿) 社会悪(水野弘元)

三昧思想

日本仏教学会編

内容 礼定と念仏(宮地廓慧) 初期仏教における定と慧(早島鏡正) 三昧による真理認識(川田熊太郎) 三昧の道(山口恵照) ヨーガ派に於ける三昧の補助手段(本多恵) 法華経における三昧思想について(清田寂雲) 般舟三昧と十住毘婆沙論(小玉大圓) 天台智顛の三昧思想考(大野栄人) 天台止観における罪福相(村中祐生) 一行三昧論(小林円照) 華嚴三昧について(鍵主良敬) 念仏三昧宝王論について(中山正晃) 浙江における唐末までの禅宗の推移(鈴木哲雄) 法然上人とその遺文にみられる三昧について(藤堂恭俊) 念仏三昧と金剛心(大門昭忍) 親鸞の念仏三昧義(岡亮二) 観無量寿経に於ける三昧について(石垣源瞻) 『正法眼蔵』の三昧(金来隆真) 『正法眼蔵』における「三昧」について(鈴木格禪) 日蓮聖人における唱題と三昧について(上田本昌) 日蓮教学における三昧の問題(渡辺宝陽) 興教大師覚鑿の三摩地観(松崎恵水) 明治仏教における近代的思维と禅(池田英俊) 御願寺の成立について(平岡定海) 森の譬喩について—Sokavartika, vanavadaを中心として—(竹中智泰) Hewajra-tantra における samādhi について(磯田照文) Sūtrampāta 1032—1039: Ajitamāṇa-vapucchā について(荒牧典俊)

A5 四六二頁／四八〇〇円／丁二〇〇円

平楽寺書店

京都市中京区東洞院通三条上ル

振替口座 京都 613 番

赤松俊秀・藤島達朗・宮崎円遵・平松令三編

親鸞聖人真蹟集成

全九卷
別巻2

菊判・裂地表紙・函入・¥140,000
『西方指南抄』など初公開のものや断簡として散在するものも残らず収録。別巻は専修寺本『顕浄土真実教行証文類』上・下巻

定本親鸞聖人全集全九卷

親鸞聖人全集刊行会 B 6判・全巻25,200円

教行信証講義全三巻

赤沼智善・山辺習学著 4 6判・全巻7,500円

教行信証講義集成全九巻

仏教大系本 A 5判・全巻63,000円

清沢満之全集全九巻

暁鳥敏・西村見暁編 B 6判・全巻23,600円

真宗年表

大谷大学編 A 5判・3,800円

曾我量深説教集第一部全八巻

西谷啓治訓覇信雄・松原祐善編 4 6判・各巻2,200円

金子大栄講話集全五巻

4 6判・②1,200円 ①③④⑤各巻1,800円

原典校注真宗聖典全一卷

金子大栄編 4 6判・4,800円

近刊

教行信証講解 1 教行の巻

星野元豊著、本文は「坂東本」によっているが、その難解な漢文も平明に和訳して解説し、一般人に理解出来るよう配慮している。著者数十年にわたる労苦の結晶で、人間の真実を開顕した書として一般読書界に大きな反響をよぶことを確信する。(価未定)

選択集研究序説

石田充之著

価三〇〇〇円 千二〇〇〇円

浄土論序説

稻城選恵著

価五〇〇〇円 千二四〇〇円

台学指針

法華玄義提綱

日下大癡著

価三〇〇〇円 千二〇〇〇円

華嚴思想史

高峯了州著

価四〇〇〇円 千二四〇〇円

大乘仏教思想の根本構造

上田義文著

価二〇〇〇円 千二〇〇〇円

一切眞実の
根拠としての

世界

中山延二著

価二〇〇〇円 千二〇〇〇円

佛性論研究

武邑尚邦著

近刊

聖徳太子の生涯と思想

金治勇著

千 1000
千 160円

親鸞と倫理

遊亀教授著

千 1000
千 160円

千 600

発行所

百

華

苑

京都市下京区堀川通花屋町
振替 京都 25788 番

CONTENTS

| | |
|---|-------------------------|
| On the Religious Consciousness among Women Students | Yūho Terakawa..... 1 |
| On the Quotation of the “ <i>Bodhisattva-sīla sutra</i> ” (菩薩戒經) in the “ <i>Kyōgyōshinshō</i> ” | Ryūmyō Yamazaki.....17 |
| A Study of the Practice of Nembutsu and the Persecution of Buddhism | Muneyuki Koizumi.....28 |
| A Study of the ‘Great Practice’ Theories | Ryūsei Takeda.....34 |
| The Reoccurrence of the Myth of Pure Land in terms of Archetype | Shinya Yasutomi.....44 |
| Jinen (Naturalness) | Kōhan Washio.....54 |
| Concerning the “ <i>Gatha to the Pure Land Dharmakaya</i> ” (浄土法身讚) discovered at Tun-huang..... | Daishun Ueyama.....62 |
| On the Business Management Division of Higashi Honganji in the Modern Age | Akio Tanihata.....72 |
| Genshin’s Concept of Buddha Land | Kōju Hosokawa.....83 |
| The Usage of <i>Kana</i> (the Japanese syllabary) by Shinran as seen in the Original Manuscripts | Tesshin Kadokawa.....93 |
| Amida’s Name (Myōgō) and Dharmakara Bodhisattva as Sambhogakaya | Kōjō Motokawa... 106 |
| What is the Study of Buddhist Evangelization? | Yūtai Ikeda... 111 |
| The Philosophical Significance of the “ <i>Mappōtomyōki</i> ,, (末法灯明記) | Shōjun Bandō... 121 |

**THE
SHINSHU KENKYU**

JOURNAL
OF
SHINSHU STUDIES

No. 21 December 1976

Published by
SHINSHU RENGU GAKKAI
The Research Association of Shinshu Studies
Kyoto Japan